

「まちのり」の概要及び利用状況

まちのり導入の経緯①

- 金沢のまちなかは、近代建築や藩政期から残る城下町の風情といった新旧の文化を楽しめる観光資源が多数存在しているが、**これまでの観光スタイルでは**、兼六園などの主要観光地を中心とした**限定的な回遊行動が主流**であった。
- 来街者の観光需要に配慮したまちなかの**回遊性向上**、平成27年の北陸新幹線金沢開業を控えた**金沢駅からの二次交通の充実**などへの対応のため、平成24年3月から「まちのり」の運営がスタート。
- 令和2年3月には、**都市内交通の充実**や**さらなる観光需要への対応**のため、第2期「まちのり」として電動アシスト車を導入。75か所のポート・500台の自転車で運営中。
- 来街者のほか住民の利用も多くみられ、**令和4年度には年間利用者数が25万人**となり目標10万人を大幅に上回った。

運営方式

実施主体 : 金沢市
 運営 : 日本海コンサルタント

運営の総括、ポート用地確保、機器整備・運営の一部費用負担
 自転車・駐輪機器の整備、料金徴収・自転車再配置等

利用実績

年度	利用者数
令和2年度	10万3,785人
令和3年度	16万3,666人
令和4年度	25万3,345人



ドコモ・バイクシェアアプリ

- 130万人以上のドコモ・バイクシェア利用者が「まちのり」を利用可能
- 金沢で登録したユーザーは、各都市のドコモ・バイクシェアを利用可能



災害時の利用

- 金沢市、日本海コンサルタント、ドコモ・バイクシェアの3者で災害時のまちのりの使用に関する協力協定を締結(令和2年)
- 地震等が発生した際、被害状況の調査に当たる職員が無償で利用可能

まちのり導入の経緯②

- 平成24年からの第1期「まちのり」は、サイクルポートは21か所（まちなか20か所と事務局）、1日の基本料金は200円、自転車は155台で運営。
- 北陸新幹線の金沢開業効果もあり、利用者は観光客を中心に増加し、平成27年度には21万回の利用があった。
- しかしながら、第1期「まちのり」では、**市民の利用が少ない、サイクルポートに端末機の設置が必要で費用が高い、機器類の故障・再配置の費用に見合う収入が得られない**などの課題が生じたため、令和2年3月からシステムを変更し、第2期「まちのり」に移行した。

第2期「まちのり」の変更点

サイクルポート

システム

路上端末機
ラック型 → 車載型
ラックレス型

電気工事が不要になり、ポート設置が容易に

サイクルポート

21か所 → 75か所

令和5年3月末時点

自転車

155台
一般車 → 500台
電動アシスト自転車

利用時間

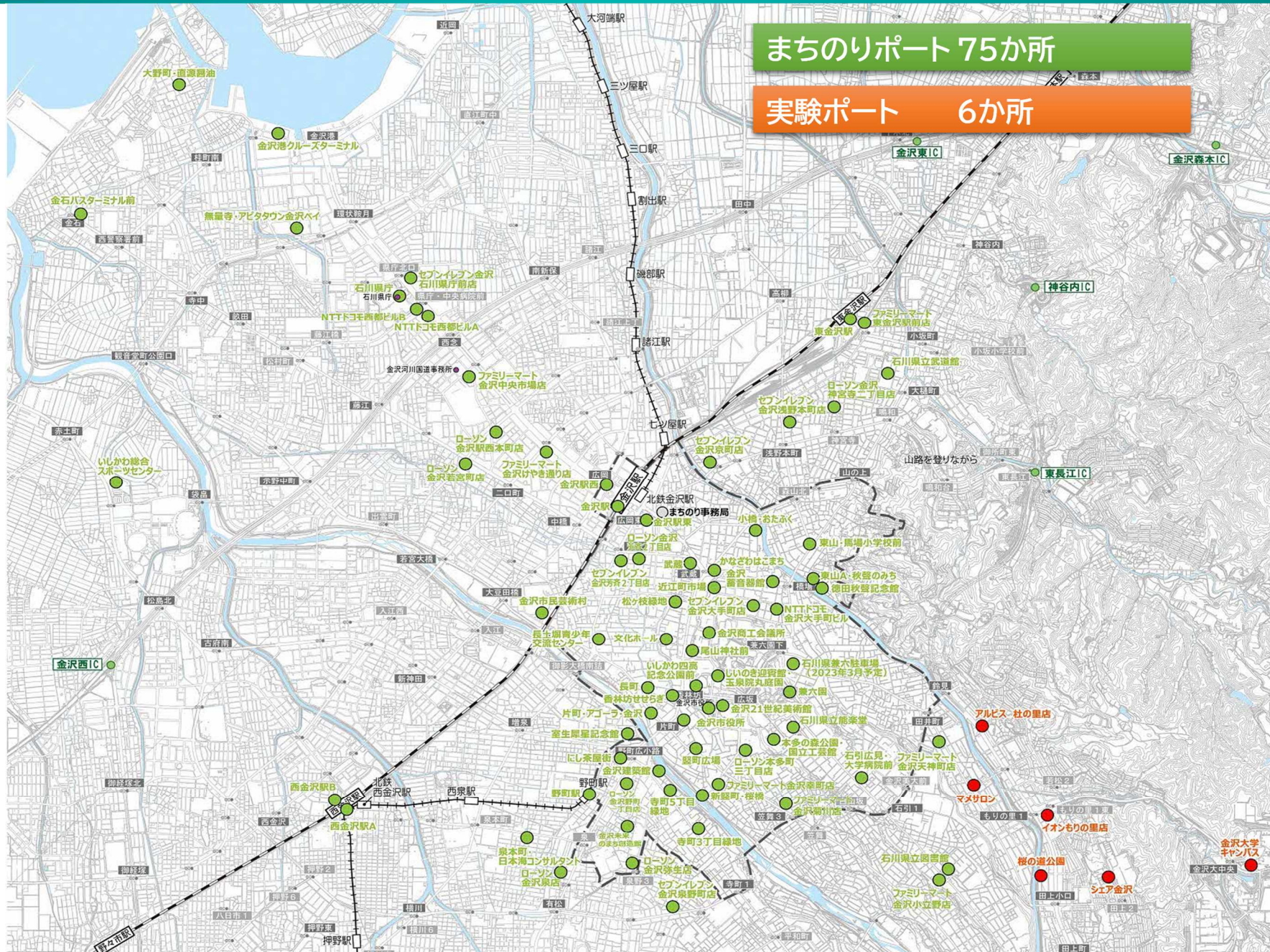
7時半～22時半 → 24時間

主な利用料金

基本料金 200円
最初の30分 0円/30分
延長料金 200円/30分
何回使っても最初の30分は無料

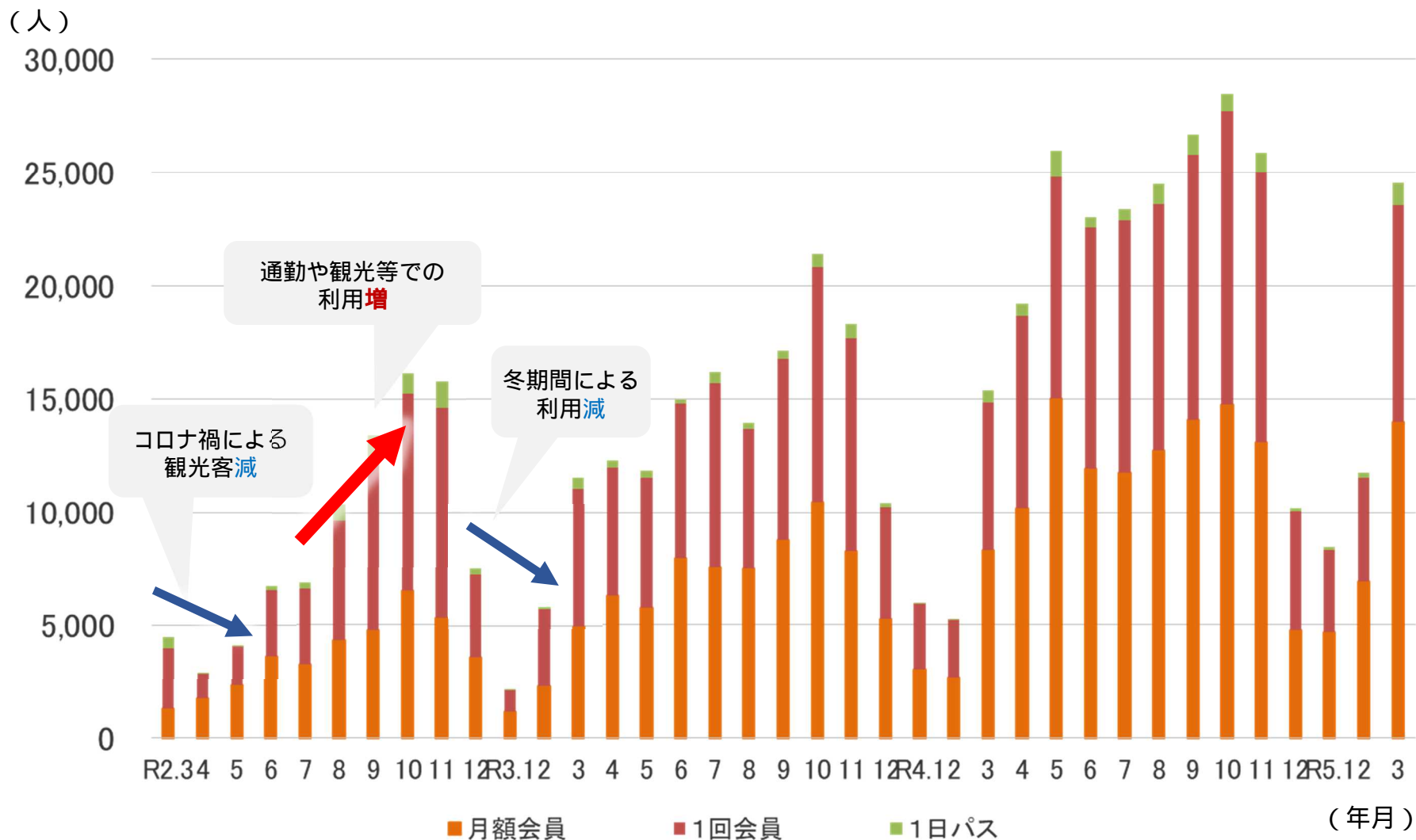
基本料金 無料
最初の30分 165円/30分
延長料金 110円/30分
1回利用ごとに料金加算

まちのり導入の経緯③



第2期まちのりの利用状況

- 来街者の利用（1回会員や1日パス）のほか、住民の利用（月額会員）も多くみられ、**令和4年度には年間利用者数が25万人**となり目標10万人を大幅に上回った。



参考

シェアサイクルによる都市の魅力向上

- 都市（人口17万人以上の都市など138都市）の力を定量・定性データをもとに相対的かつ多角的に分析し、都市特性を明らかにする「日本の都市特性評価」においては、2021年より新指標として「自転車の利用のしやすさ（シェアサイクルポート数や移動手段の自転車割合）」が追加され、金沢市は「交通・アクセス分野」で前年の46位から29位に上昇。



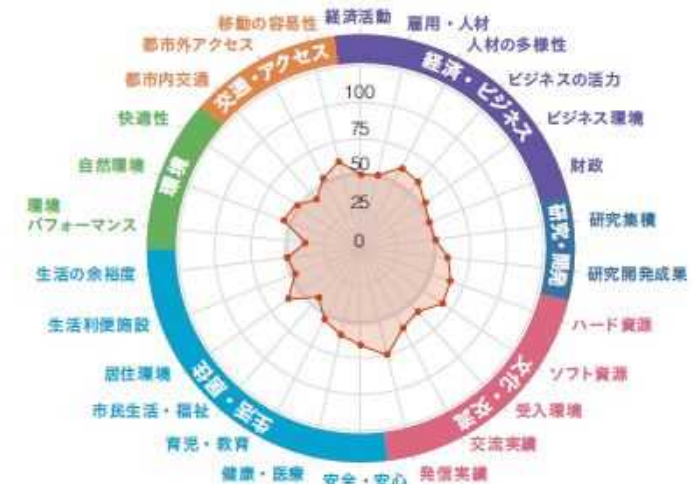
文化・歴史という魅力に加え、移動の利便性を伸ばした城下町

文化・交流が強みである金沢市は、「ソフト資源」や「ハード資源」、「交流実績」でスコアを若干落としたものの高順位を維持している。文化・歴史・伝統への接触機会や、魅力度・認知度・観光意欲度などの指標の強みが光った。生活・居住においても「安全・安心」の指標が昨年に引き続き高評価を得ている。また、交通・アクセスは、自転車の利用のしやすさの高評価が貢献して大きく順位を伸ばしており、〈金沢市自転車活用推進計画〉に基づく自転車を活用したまちづくりの成果がみられる。観光都市としての魅力に加え、生活のしやすさや移動の容易性を兼ね揃えた都市に成長していることがわかる。

分野別の順位・偏差値



指標グループ別の偏差値



まちのりを利用したサイクルツーリズム施策

- まちのりの利用促進を目指し、文化や自然に触れるツアーを実施。
- 自転車通行空間が整備してあるルートを優先選択し、ヘルメット着用や「歩道は原則押し歩き」などのルールの啓発も行いつつ、工芸体験、文化施設・史跡での学芸員からの講義などを行い、「文化ツーリズム」のモデルケースとして注目されている。
- また、金沢の伝統工芸である「金沢箔」と「まちのり」のコラボレーションにより「はくのり」が登場。伝統工芸の魅力発信のみならず、地元住民の意識醸成やまちのりのPRにもつながっている。

いしかわ百有文化祭 2023 応援事業

電動アシストサイクル

まちのり CYCLE TRIP

参加者募集中!

モニターツアー

全4コース 定員:各回10名

参加費 全コース共通 2,000円/人 (1日バス代金+保険料)

ランチ付き

4つのテーマで自転車旅を体験。地域を学ぶモニターツアーです。どなたでも参加できます。
※モニターの募集には、各ツアー終了後、簡単なアンケートにお答えいただきます。

11/16(水) Aコース 伝統工芸・食 体力★★★
金石・大野の歴史と九谷焼の文化にふれる
コース概要▶9:30/金沢港クルーズターミナル集合(基本的な説明)▶9:45/金沢港クルーズターミナル出発(大野町散策)▶10:30~11:30/象右衛門五郎やのこしてまち案内▶11:30~12:20/おたがや。(ランチタイム)▶12:45/Kurumi木野のイカバス(金沢メカニクスの説明)▶13:00/つばねきよスタート(休んでいる間に、浴場の給付付体験)▶14:40/焼き上がり・朝食▶15:30 金沢港クルーズターミナル到着(自転車回収・解散)

11/18(金) Bコース 伝統工芸・食[鶴来・手取川] 体力★★★
金沢から白山・手取川の自然や鶴来の町並みにふれる
コース概要▶9:15/野間川1号集合(基本的な説明)▶9:34/野間川山荘(サイクルトレイン車庫)▶10:06 鶴来観光(まちのり体験)▶10:30~11:00 金沢宮(ホラソウライランド)による案内▶11:20 阿久戸川(自由散策)▶11:50/鶴来茶屋(ゴンドラ往復)▶12:30~13:30 もく遊りん(ランチタイム)▶13:40 白山社(お祈り)▶14:00 フリータイム(各自で寄りながら観光)▶15:10 鶴来茶屋集合▶15:23 鶴来駅(鶴来(サイクルトレイン車庫))▶15:54/野間川山荘(自転車回収・解散)

11/21(月) Cコース 自然・景観[まちなか] 体力★★★
城下町金沢の景観や伝統にふれる
コース概要▶9:30/金沢駅北口集合(基本的な説明)▶9:45/金沢駅出発(まちのり体験)▶10:10/日輪豆がめおむし(ノマノマにてカフェタイム、お土産屋見学)▶10:30 日輪豆がめおむし体験▶11:10 扇原山遊歩道(まちのり体験)▶11:30~12:45/つばねきよ(ランチタイム)▶13:00 雲出町(金沢市指定重要伝統的建造物群保存地区)▶13:50 扇原山遊歩道(お土産屋見学)▶14:10/扇原山遊歩道(まちのり体験)▶14:30/扇原山遊歩道(まちのり体験)▶15:31/金沢駅到着(解散)

11/29(火) Dコース 祭り・伝統芸能 体力★★★
「空から謡が降ってくる」初めての能・狂言体験
コース概要▶10:00/金沢駅北口集合(基本的な説明)▶10:15/金沢駅(能)▶11:00 金沢地楽美術館(能の説明・体験)▶12:00~12:50/善人亭(ランチタイム)▶13:00 扇原山遊歩道(能・狂言を学ぶ)▶13:40/扇原山遊歩道(能の見学)▶14:30~15:00/松の湯・見学(扇原山遊歩道)▶15:30/金沢5丁目(扇原山遊歩道)▶15:30/金沢駅到着(解散)



乗車回転数(R4.10/11~11/10調べ)

はくのり 4.66回/日・台

全体 3.67回/日・台

まちのりでめぐるモニターツアー 募集チラシ